史跡　五色塚古墳（ごしきづかこふん）　小壺古墳（こつぼこふん）

五色塚古墳は、淡路島を望む台地の上に築かれた前方後円墳です。その全長は194mで、兵庫県で一番大きな古墳です。周囲を深い濠(ほり)と浅い溝で二重に囲い、西側には円墳で、直径70mの小壺古墳が築かれています。この五色塚古墳は、全国的にみると40番目前後の大きさですが、同じ時期のものだけと比べると、奈良県北部の大王墓(佐紀古墳群)と肩を並べる大きさです。

4世紀の終わり頃、この古墳に葬(ほうむ)られた人は、明石海峡とその周辺を支配した豪族(ごうぞく)だと考えられます。

整備工事以前の五色塚古墳

五色塚古墳に関する最初の記事は、日本書紀(にほんしょき)に見られます。「仲哀(ちゅうあい)天皇の偽(にせ)の墓で、葺石(ふきいし)は淡路島から船で運んできた」と書かれています。しかし、ほかの古墳と同様に、すべて丁寧(ていねい)に造られていることや、人が葬(ほうむ)られる石室の石材が出土していることから、偽物とは考えられません。

江戸時代には様々な人が訪れ、絵や文章などの記録を残しています。18〜19 世紀に活躍した絵師 司馬江漢(しばこうかん)も、長崎旅行の途中に立ち寄ったことが、彼の残した日記に記されています。明治・大正時代には、人類学者や考古学者が調査をし、記録を残しています。ほとんどの学者は、埴輪に興味を示し、その大きさや配列状態を記録しています。

第二次世界大戦中、古墳に生えている松を切り船材としたり、その根から油を採取しました。また、戦後は食糧難から畑として開墾されたために、荒廃してしまいました。昭和 30 年代の後半になり、五色塚古墳を守ろうと、文化財保護委員会(現文化庁)が計画をたて、神戸市が地域の方々の協力を得て、昭和 40 年から 10 年の歳月をかけ、発掘調査と復元工事を行いました。

1960 年頃、樹木がほとんどなく、畑になっている

五色塚古墳の発掘調査

整備に向けて発掘調査が始められたのは、昭和 40 年 12 月でした。古墳は、畑でほとんど壊(こわ)されているのではないかと考えられていましたが、調査が進むにつれ、たいへんよく残っていることがわかり、古墳全体の発掘調査をすることになりました。その結果、古墳は三段に築かれ、斜面にはびっしりと石が葺かれ、各段の平坦面と頂上には、鰭付円筒埴輪(ひれつきえんとうはにわ)が立て並べられていました。一番下の段の葺石は付近のものですが、上二段の葺石は分析の結果、淡路島の東側の海岸で産出するものであることがわかりました。伝承として地域に残っていたものを、日本書紀が採用したのでしょう。埴輪はほとんどが鰭付円筒埴輪で、4〜6 本に 1 本の割合で鰭付朝顔形埴輪(ひれつきあさがおがたはにわ)が立てられていました。ほかには蓋形埴輪(きぬがさがたはにわ)や盾形埴輪(たてがたはにわ)などが少し出土しています。濠の中には、島状の土壇が造られ、祭祀(さいし)を行う場所であったと考えられます。

鰭付円筒埴輪

鰭付朝顔形埴輪

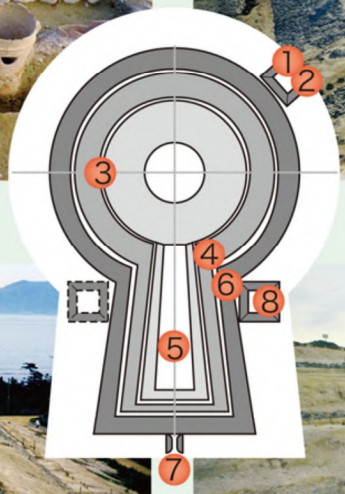
復元された埴輪群(重要文化財)

①円筒埴輪を利用した棺

②後円部東側の島状遺構

③各段に立て並べられた円筒埴輪

④東側くびれ部の埴輪列



⑤発掘調査中の前方部全景

⑥東側くびれ部の葺石

⑦前方部南側の通路状遺構

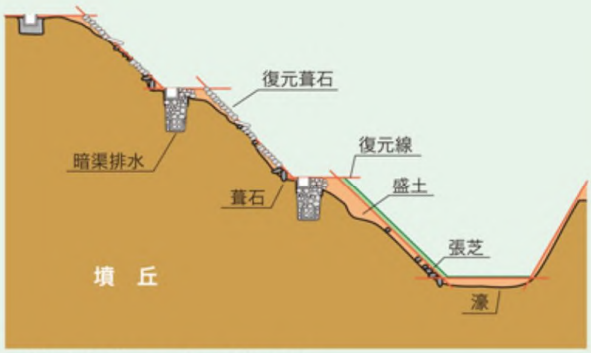
⑧東側くびれ部の島状遺構

五色塚古墳の復元整備

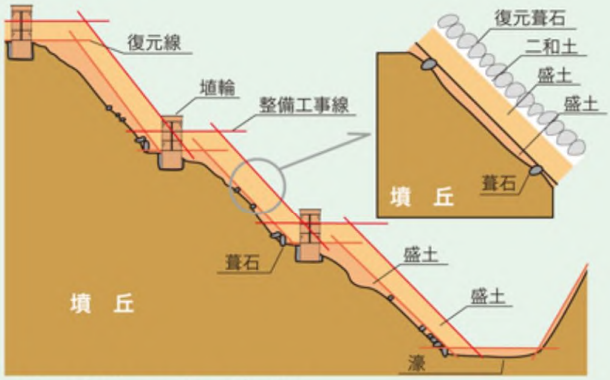
五色塚古墳の復元は、発掘調査の成果に基づいて、設計されました。当初は、正確に築造当時の形に復元しようとし、発掘調査で出土した古墳時代の面に、転落した葺石（ふきいし）を拾い上げ、葺(ふ)き直しました。しかし、工事中に古墳の一部が壊れたり、時間の経過とともに雨水などの影響で保存が困難であることがわかりました。そこで、工法を改良しながら、前方部はすべて古墳築造当時の面を利用し、復元しました。

後円部は、幅 1m で 7 カ所だけ調査をし、復元の資料を得ました。したがって、古墳築造時の面の調査は部分的でしたので、全体に 50cm の盛土をし、その上に新たに購入した石を葺きました。したがって、前方部と後円部は 50cm の違いがあります。墳頂（ふんちょう）へ上るためにくびれ部に設けた階段で、その差を解消しています。

後円部の復元工事



前方部復元計画模式図



後円部復元計画模式図

五色塚古墳の CG 復元

発掘調査資料をもとに、五色塚古墳が築かれた当時の姿に CG（コンピューターグラフィックス）で復元したのが、右の画像です。

海に面した台地上に築かれ、周囲には深くて大きな濠（ほり）が全周し、後円部ではその外に、さらに浅い溝が巡らされています。濠の中には、くびれ部の両側と後円部の東側に島状のマウンドが築かれています。また、前方部南側には通路のように土橋が設けられています。古墳は三段に築かれ、斜面には石が葺(ふ)かれ、各段の平坦面と墳頂(ふんちょう)には埴輪が立て並べられています。

小壺古墳は、二段に築かれた円墳で、斜面には石は葺かれていません。平坦面と墳頂には、五色塚古墳と同様に埴輪が立て並べられ、濠の中には、やはり土橋が設けられています。

CG で復元した五色塚古墳と周辺の地形

神戸市文化スポーツ局文化財課　TEL078-322-5799　五色塚古墳管理事務所　TEL078-707-3131
〒650-8570　神戸市中央区加納町６丁目５番１号　　〒655-0035　神戸市垂水区五色山４丁目
神戸市広報印刷物登録　令和２年度第 375 号（神戸市印刷物規格 B-1 類）